

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：27601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00377

研究課題名（和文）国際漢学における日本楚辞学の位置づけと意義

研究課題名（英文）The Position and Significance of Japanese Chu-Ci Studies in International Sinology

研究代表者

田宮 昌子 (Tamiya, Masako)

宮崎公立大学・人文学部・教授

研究者番号：70316199

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：プロジェクトはコロナ禍を受けて二度の延長を余儀なくされたが、23年度に以下の3事業を実施して無事終了した。まず4月に中国屈原学会（湖北省シ帰県）においてメンバー全員が研究発表を行い、11月には国際漢学ワークショップ「国際漢学における日本楚辞学」（東京大学）を開催した。当日は中国からの招聘研究者・湯江平、黄靈庚、王海遠、徐志嘯が、プロジェクトからは研究課題1 浅見綱斎『楚辞師説』について田宮・矢羽野が、課題2 西村天囚『屈原賦説』について谷口・矢田が研究成果を報告し、活発な討議を行った。最後に、研究成果報告書『国際漢学における日本楚辞学の位置づけと意義』（鈺脈社、2024年3月）を発行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、日本の楚辞研究の成果を、楚辞研究者と漢学研究者との協働によって日本の学術史の中に位置づけようとする縦軸（通時性）と、中国の楚辞研究者との協働によって「国際漢学」の中に位置づけようとする横軸（共時性）をクロスさせ、分野と国家という境界を越境・往来して行おうとする点にある。パンデミックにより共に制約を受けたが、設定した研究課題・浅見綱斎『楚辞師説』と西村天囚『屈原賦説』について、「近世における研究の発生と展開」「近世の成果の継承と近代学術としての再構築」の観点から考察を加え、その成果を国内外の学界・社会に発信し、中国屈原学会公式サイトにおいて紹介される等の反響を得た。

研究成果の概要（英文）：This project was forced to be extended twice due to the COVID-19 pandemic, but was successfully completed in FY2023 with the following three academic activities. First, all members presented their research (video format) at the China Qu Yuan Society (Zigui County, Hubei Province) in April, and in November, an international Sinology workshop, "Japanese Chu-Ci Studies in International Sinology" (University of Tokyo) was held. On the day, invited researchers from China, Tang Zhangping, Huang Linggen, Wang Haiyuan, and Xu Zhixiao, as well as project members Tamiya and Yahano on Research Project 1, "Soji-Shisetsu" by Asami Keisai, and Taniguchi and Yata on Research Project 2, "Kutsugen-Fusetsu" by Nishimura Tenshu, reported on their research results and engaged in lively discussions. Finally, a research report titled "The Position and Significance of Japanese Chu-Ci Studies in International Sinology" (Komyakusha, March 2024) was published.

研究分野：中国文学

キーワード：楚辞 屈原 国際漢学 日本漢学 浅見綱斎 西村天囚

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

中国において「楚辞」は文学ジャンルの中でも極めて高い位置づけを与えられ、21世紀に入ってからでも巨費を投じた国家プロジェクトが既に複数件実施されている。また「日本漢学」は中国の学界において「国際漢学」の中でも比較的認知されていたが、今世紀に入って訪日調査が盛んになると、その一領域である楚辞研究の認知も進み、日本での楚辞関連文献の伝存と楚辞研究の蓄積とに中国の学界から強い関心が寄せられるようになった。一方、肝心の日本では「日本楚辞学」として、日本の、ひいては世界の学術の中に位置づけようとする視点は乏しい。本研究の背景には、このような状況に対して、日本の研究者こそが日本における研究の成果を体系的に評価すべきではないか、という問題意識があった。

### 2. 研究の目的

「楚辞」は、戦国末期以来二千年以上の歴史を持つ中国文学の一大ジャンルであり、中国では楚辞研究を「国学」として重視して来た。また、今世紀に入って「国際漢学」(世界における中国研究)という観点から、「日本漢学」(この場合、伝統漢学から戦後の中国学までを含む)および楚辞研究に注目する動きも顕著になって来ている。一方、日本では、日本におけるこれらの学術的営為を体系的に評価し、世界の学術の中に位置づけようとする視点や動きはこれまでのところ見られない。本研究は、このような状況への問題意識から、日本における楚辞研究の歴史的蓄積を日本の楚辞研究者と漢学研究者との協働により日本の学術史の中に位置づけ評価しようとする縦軸(通時性)と、中国の楚辞研究者との協働により「国際漢学」の中に位置づけ評価しようとする横軸(共時性)とをクロスさせながら、「日本楚辞学」として体系化しようとしたものである。

### 3. 研究の方法

本研究では、「日本楚辞学」を考える上での重要な成果として、以下の二大研究課題を設定し、上に述べたように、日本の楚辞研究者と漢学研究者との協働により日本の学術史の中に位置づけ評価しようとする縦軸(通時性)と、中国の楚辞研究者との協働により「国際漢学」の中に位置づけ評価しようとする横軸(共時性)とをクロスさせながら、これら二課題に見られる「近世における研究の発生と展開」および「近世の成果の継承と近代学術としての再構築」を「日本楚辞学」として体系化し、その学術的意義を明らかにすることを試みた。

研究組織：研究課題 浅見綱斎『楚辞師説』：田宮昌子、矢羽野隆男

研究課題 西村天囚『屈原賦説』：谷口洋、矢田尚子

### 4. 研究成果

[雑誌論文] 計6件

田宮昌子「浅見綱斎講『楚辞師説』研究序説 崎門派の学と思想」『宮崎公立大学人文学部紀要』第28巻、33-52、2021年3月

田宮昌子「浅見綱斎『靖献遺言』の構想と思想」『宮崎公立大学人文学部紀要』第30巻、29-49、2023年3月

田宮昌子「浅見綱斎『靖献遺言』における屈原像 「捨生而取義」をめぐる攻防」『宮崎公

立大学人文学部紀要』第 31 卷、27-42、2024 年 3 月

矢羽野隆男「浅見綱齋『楚辞師説』初探」『中国研究集刊 湯浅邦弘教授退休記念号』69 号、119-137、2023 年。査読有。DOI 有 識別子 <https://doi.org/10.18910/90863>

谷口洋「西村天囚『屈原賦説』にみる漢学の近代」『超域文化科学紀要』27、右 1-25、2022 年

矢田尚子「明治・大正期の楚辞学 岡松麿谷・田岡嶺雲・西村天囚を中心に」『東北大学中国語学文学論集』第 28 号、1-12、2023 年 12 月

[学会発表]計 8 件

矢田尚子「芦東山の愛読した『楚辞』とその思想的共振」芦東山記念館特別講演会、岩手県一関市大東コミュニティセンター多目的ホール、2022 年 12 月

田宮昌子「日本近代屈原形象的淵源—浅見綱齋《靖献遺言》中の屈原言説」宜昌・シ帰屈原及楚辞学国際学術研究会暨中国屈原学会第十九届年会（中国・湖北省）、2023 年 4 月 11 日（ビデオ形式）

矢羽野隆男「浅見綱齋『楚辞師説』特徴一斑」宜昌・シ帰屈原及楚辞学国際学術研究会暨中国屈原学会第十九届年会（中国・湖北省）、2023 年 4 月 11 日（ビデオ形式）

谷口洋「西村時彦《屈原賦説》与日本新漢学」宜昌・シ帰屈原及楚辞学国際学術研究会暨中国屈原学会第十九届年会（中国・湖北省）、2023 年 4 月 11 日（ビデオ形式）

田宮昌子「浅見綱齋の屈原観—作為近代日本屈原形象的淵源—」国際漢学ワークショップ「国際漢学における日本楚辞学」東京大学駒場キャンパス、2023 年 10 月 21 日

矢羽野隆男「浅見綱齋『楚辞師説』特徴三則」国際漢学ワークショップ「国際漢学における日本楚辞学」東京大学駒場キャンパス、2023 年 10 月 21 日

谷口洋「西村天囚『屈原賦説』与日本新漢学」国際漢学ワークショップ「国際漢学における日本楚辞学」東京大学駒場キャンパス、2023 年 10 月 21 日

矢田尚子「明治・大正時期的楚辞学 以岡松麿谷・田岡嶺雲・西村天囚為中心」国際漢学ワークショップ「国際漢学における日本楚辞学」東京大学駒場キャンパス、2023 年 10 月 21 日

[科研費を使用して開催した国際研究集会]計 1 件

国際漢学ワークショップ「国際漢学における日本楚辞学」東京大学駒場キャンパス、2023 年 10 月 21 日

[研究成果報告書]

『国際漢学における日本楚辞学の位置づけと意義』鉾脈社、2024 年 3 月

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>田宮 昌子                            | 4. 巻<br>31            |
| 2. 論文標題<br>浅見綱斎『靖献遺言』における屈原像 「捨生而取義」をめぐる攻防 | 5. 発行年<br>2024年       |
| 3. 雑誌名<br>宮崎公立大学人文学部紀要                     | 6. 最初と最後の頁<br>27-42   |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし              | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）      | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>矢羽野 隆男                           | 4. 巻<br>69            |
| 2. 論文標題<br>浅見綱斎『楚辞師説』初探                    | 5. 発行年<br>2023年       |
| 3. 雑誌名<br>中国研究集刊 湯浅邦弘教授退休記念号               | 6. 最初と最後の頁<br>119-137 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.18910/90863  | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）      | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>田宮 昌子                            | 4. 巻<br>30            |
| 2. 論文標題<br>浅見綱斎『靖献遺言』の構想と思想                | 5. 発行年<br>2023年       |
| 3. 雑誌名<br>宮崎公立大学人文学部紀要                     | 6. 最初と最後の頁<br>29-49   |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし              | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）      | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>谷口 洋                             | 4. 巻<br>27            |
| 2. 論文標題<br>西村天囚『屈原賦説』にみる漢学の近代              | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>超域文化科学紀要                         | 6. 最初と最後の頁<br>右1-25   |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし              | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）      | 国際共著<br>-             |

|  |                    |
|--|--------------------|
| 1. 著者名<br>矢田尚子                           | 4. 巻<br>28         |
| 2. 論文標題<br>明治・大正期の楚辞学 岡松麿谷・田岡嶺雲・西村天因を中心に | 5. 発行年<br>2023年    |
| 3. 雑誌名<br>東北大学中国語学文学論集                   | 6. 最初と最後の頁<br>1-12 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし           | 査読の有無<br>有         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>-          |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>田宮昌子                         | 4. 巻<br>28          |
| 2. 論文標題<br>浅見綱斎講『楚辭師説』研究序説 埼門派の学と思想    | 5. 発行年<br>2021年     |
| 3. 雑誌名<br>宮崎公立大学人文学部紀要                 | 6. 最初と最後の頁<br>33-52 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著<br>-           |

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 7件)

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>田宮昌子                             |
| 2. 発表標題<br>浅見綱斎の屈原観 作為近代日本屈原形象の淵源           |
| 3. 学会等名<br>国際漢学ワークショップ「国際漢学における日本楚辞学」(国際学会) |
| 4. 発表年<br>2023年                             |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>矢羽野隆男                            |
| 2. 発表標題<br>浅見綱斎『楚辭師説』特徴三則                   |
| 3. 学会等名<br>国際漢学ワークショップ「国際漢学における日本楚辞学」(国際学会) |
| 4. 発表年<br>2023年                             |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>谷口洋                              |
| 2. 発表標題<br>西村天囚『屈原賦説』与日本新漢学                 |
| 3. 学会等名<br>国際漢学ワークショップ「国際漢学における日本楚辞学」(国際学会) |
| 4. 発表年<br>2023年                             |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>矢田尚子                             |
| 2. 発表標題<br>明治・大正時期的楚辞学 以岡松龔谷・田岡嶺雲・西村天囚為中心   |
| 3. 学会等名<br>国際漢学ワークショップ「国際漢学における日本楚辞学」(国際学会) |
| 4. 発表年<br>2023年                             |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>矢羽野 隆男  |
| 2. 発表標題<br>浅見綱齋『楚辞師説』特徴一斑                                      |
| 3. 学会等名<br>宜昌・シ帰屈原及楚辞学国際學術研討会暨中国屈原学会第十九届年会(中国・湖北省・ビデオ形式)(国際学会) |
| 4. 発表年<br>2023年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>田宮 昌子   |
| 2. 発表標題<br>日本近代屈原形象の淵源 浅見綱齋《靖献遺言》中の屈原言説                        |
| 3. 学会等名<br>宜昌・シ帰屈原及楚辞学国際學術研討会暨中国屈原学会第十九届年会(中国・湖北省・ビデオ形式)(国際学会) |
| 4. 発表年<br>2023年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>谷口 洋  |
| 2. 発表標題<br>西村時彦《屈原賦説》与日本新漢学                                    |
| 3. 学会等名<br>宜昌・シ帰屈原及楚辞学国際學術研討会暨中国屈原学会第十九届年会（中国・湖北省・ビデオ形式）（国際学会） |
| 4. 発表年<br>2023年  |

|                                 |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名<br>矢田 尚子                |
| 2. 発表標題<br>芦東山の愛読した『楚辞』とその思想的共振 |
| 3. 学会等名<br>芦東山記念館特別講演会（招待講演）    |
| 4. 発表年<br>2022年                 |

〔図書〕 計1件

|                                |                 |
|--------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>田宮昌子・矢羽野隆男・谷口洋・矢田尚子他 | 4. 発行年<br>2024年 |
| 2. 出版社<br>鈺脈社                  | 5. 総ページ数<br>95  |
| 3. 書名<br>国際漢学における日本楚辞学の位置づけと意義 |                 |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                      | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)               | 備考 |
|-------|--|-------------------------------------|----|
| 研究分担者 | 矢羽野 隆男<br><br>(Yahano Takao)<br><br>(80248046) | 四天王寺大学・人文社会学部・教授<br><br><br>(34420) |    |

## 6. 研究組織（つづき）

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                         | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)                     | 備考 |
|-------|---|---|----|
| 研究分担者 | 谷口 洋<br><br>(Taniguchi Hiroshi)<br><br>(40278437) | 東京大学・大学院総合文化研究科・教授<br><br><br><br>(12601) |    |
| 研究分担者 | 矢田 尚子<br><br>(Yata Naoko)<br><br>(10451494)       | 東北大学・文学研究科・教授<br><br><br><br>(11301)      |    |

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

|                                      |                    |
|--------------------------------------|--------------------|
| 国際研究集会<br>国際漢学ワークショップ「国際漢学における日本楚辞学」 | 開催年<br>2023年～2023年 |
|--------------------------------------|--------------------|

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|         |         |